

Top

トップと語る

54

interview

ヤマカグループ



ヤマカグループ 代表

加藤 智子 氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 秋葉 和人

Satoko Kato

YAMAKA GROUP

**女性だからといって甘えることなく、
謙虚さを忘れず、おごりがないようにする。
私はこの三つのことを大切にし、いつも心がけています。**

ヤマカグループは、1895年、陶磁器を焼成する際に使用する薪の販売をきっかけに、燃料商として創業された老舗企業です。その後、陶磁器等の原料製造、製陶、不動産業など時代とともに多角化を進め、事業を展開しています。代表である加藤氏は、財界や教育界でさまざまな役職を歴任されています。

ヤマカグループ 代表
加藤 智子氏

◎聞き手
十六総合研究所 取締役社長 秋葉 和人

本日はヤマカグループ本社を訪問し、代表の加藤 智子様からお話を伺います。

昭和天皇が訪れた製陶工場

——ヤマカグループは、今年で創業126年、昭和天皇が視察された、歴史ある企業です。創業から今日までのグループの歩みについてお聞かせください。

●加藤代表（以下、敬称略） 昭和天皇にご視察いただいたことは、当社にとって非常に光栄なことでした。義理の父である2代目の加藤庄六がご案内申し上げたと聞いています。父は、多治見商工会議所の初代会頭でした。二十数年にわたり会頭を務め、94歳で亡くなる直前まで元気で頭はしっかりしていました。父が支えてくれたので、私は社長としてやってこられたのだと思います。昭和天皇が視察されたヤマカ製陶所（後の大和陶器）の工場では、当時は手作業で石を土にするところから、成形、焼成、絵付け、販売までを行っていました。通常、陶器の製造は、陶土、釉薬^{ゆう}、絵付けなど、各工程を各社が役割分担するのが一般的で、この地域でも一貫して陶器を製造するメーカーは他にありませんでした。

燃料部門では、窯を焚くためのクロマツなどの薪から始まり、時代の流れに対応して、石炭、重油



絵付け作業をご覧になる昭和天皇

と変遷し、私が社長の時に重油からLPGへと転換しました。本社では石炭を展示しておりまして、お客さまから大変珍しがられます。燃料部門はおかげさまでずっと好調であり、その恩恵で今日の私たちがあると思っています。

——この辺りは日本でも指折りの陶磁器の産地ですので、燃料を扱うというのは理にかなっているのでしょうか。

●加藤 当時、多治見や瀬戸では陶土が産出されましたので、燃料から原料、製陶へと事業を広げ、陶磁器の製造・販売が事業の中心となりました。その後、食器の原料だけでなく、ニューセラミック、ファインセラミックなどの領域にも進出しました。自動車部品の触媒素材なども作って、アメリカに出荷しています。

現在は、5社でヤマカグループを構成しています。中核企業であるヤマカ株式会社では、産業用燃料・家庭用燃料や、保険商品、セメントなどを取り扱っています。ヤマカ陶料株式会社では、陶土・釉薬・セラミック素材などを取り扱っており、ヤマカ興産株式会社と有限会社ワイ・エム・ケイは不動産業です。有限会



ヤマカグループ 代表 加藤 智子氏（右）、十六総合研究所 取締役社長 秋葉 和人（左）



人間国宝 加藤孝造作“竹”

社YMMではタイル用原料の製造を行っています。

研究開発、原料の開拓に注力



——研究開発にも力を入れていらっしゃいます。

●加藤 工場では、ISO9001の認証を取得し、品質管理に注力しています。全く別の分野から中途採用した技術者がとても研究熱心で、一生懸命やってくれていましたので、早くから役員に登用しました。

多治見や瀬戸ではすっかり陶土が取れなくなったので、ニュージーランドから原料を輸入することになりました。彼らは台風などが来ると「原料がない」と言って輸出を止めてしまうので、現地に何度か乗り込みました。ニュージーランドはコンピューターで品質管理をしているため質の良い原料が手に入ったのですが、それも枯渇してしまい、今はオーストラリアのパースの鉱山から輸入しています。中国、韓国も含め、私自身、原料買い付けのために海外に飛んで、価格の交渉などを行ったこともあります。以前、ニュージーランドに買い付けに行ったにもかかわらず、原料が全然なかったことがありました。陶土でコンテナが埋まらず、もったいなかったのですが、空いているスペースに白ワインをいっぱい詰め込んで一緒に輸入したことがありました。原料を運べないおわびの品としてお客さまに配ったのですが、大変喜ばれました。今では笑い話です。

工場閉鎖時の労使交渉「女は度胸」



——1982年の社長就任後、急速な円高となり、陶磁器製造工場をやめる決断をされました。決断に至る経緯についてお聞かせください。

●加藤 82年に夫の加藤庄造が亡くなり、専業主婦だった私が跡を継ぐことになりました。当時は戸惑うことばかりでした。3年ぐらいは全て父に相談していましたが、取引先の不良債権など難題が多く、債権者会議に出たりもしていました。85年のプラザ合意で急速に円高が進み、陶器の製造・販売を

行っていた大和陶器では合理化・機械化を進め、600人の従業員を150人ほどに減らしていましたが、それでも経営は厳しく、工場を閉鎖する決断を下した訳です。「昭和天皇が視察された老舗工場が倒産した」というさになりましたが、実際には全面閉鎖をしたにすぎません。父が創業した会社でしたので、大変心苦しかったのですが、労使交渉をしているうちにも、1ドル240円から1週間で170円台になり、最終的には78～79円になるほど円高が進みました。ディナーセットなどを輸出して取引をしていた米国の商社には、地元のメーカー5社にお願いすることで各種商品を納めることができ、私どもにとっては事なきを得ました。今ではお引き受けいただいた会社は1社も残っておらず、申し訳ないことをしたなと思います。

——しかし、早く決断されたことは、良かったのではないのでしょうか。

●加藤 英断だったと言ってくれる方もいましたが、私はまだそう思えません。工場の跡地が現在の駅の近辺に1万5000坪あるのですが、そこでの再開発が成功した時に初めてそう思えるような気がします。

閉鎖にあたって労働争議が起こり、組合委員長といろいろとやり取りをして苦労しました。仕事の後、毎晩遅くまで話し合いをしておりましたので、父は私の身体を心配して自分が矢面に立つと言ってくれたのですが、社長は私です。社長になって3年目の時でした。組合の要求に一つ一つ応えながら最後までとことん向き合い、交渉し、従業員の退職金を決めました。閉鎖は私の決断でしたので、最善を尽くしたつもりです。組合の上部団体（全化同盟）なども介入してきて大変でしたが、自分自身、社長として強くなったと思います。この経験から「女は度胸」をモットーにしています。工場跡地はグループ会社のヤマカ興産で購入して、その後スーパーのユニーに入居していただき、今はピアゴになっています。

不動産事業など幅広く手がける



——燃料、陶料、セラミックの原料、不動産など事業を多角化されています。

●加藤 3年前に従業員20人ほどのタイルの原料を製造している会社をM&Aにて取得しました。会社の名前をYMMにして引き継ぎ、工場と従業員を引き受け、給料も保証しました。当初、タイル事業は不安定だと思ったのですが、優秀な従業員がいたこともあり、今では大手衛生陶器メーカーとも取引があります。

不動産事業ですが、ここのガラス張りの「クリスタルプラザ」は、管理・運営を委託している株式会社ビーウェルと一緒にテナントを誘致しました。名古屋工業大学、スーパーのフランテ、緑内障の名医がいらっしゃる眼科、十六TT証券などに入居していただいています。また、賃貸棟の「アネックス」は全部で50戸あり、オール電化、食洗機付き、バリアフリーですが、家賃は7~10万円に抑えています。駅が近く、フランテですぐに買い物ができるなど便利さもあり、大変好評をいただいております。空き部屋が一つもなく常に満室状態です。また、父が残してくれた多治見駅北側の石炭置き場跡は、学習塾になっています。駅から徒歩1分と近いせいか、塾生は以前の3倍ほどに増えたそうです。

——地元のためにいろいろ貢献していらっしゃいます。

●加藤 多治見駅の再開発で、人が駅南側のクリスタルプラザの方に流れて来ました。これを起爆剤に駅前商店街、ながせ商店街とオリベストリートを連携させて、多治見を活性化しようと考えています。現在、多治見駅の南側は、分譲マンションと商業施設などが建てられ、開発が進んでいます。ですが、私はライバルだとは思っておりません。どんな商業施設が入居されても成功すれば、相乗効果でにぎわうと考えています。



2009年11月 旭日双光章を受章(教育行政功労)

地域のため、役職はできる限り引き受ける

——多治見商工会議所副会頭、岐阜県経済同友会代表幹事、岐阜県経営者協会副会長、岐阜県教育委員会委員長ほか、東海国立大学機構理事など、財界や教育界でも幅広くご活躍され、旭日双光章も授章されています。事業以外のことについてお聞かせください。

●加藤 これは活躍ではないんですよ。好むと好まざるにかかわらず、依頼された御役はできる範囲で引き受けるようにと、父から言われていました。さすがに80歳になりますとちょっと疲れるようになりましたが、きちんとやっていこうと思っています。国際ソロプチミスト多治見初代会長に就任した時は、大和陶器の工場を閉鎖したのと同時期だったので、「会社をつぶして、奉仕団体でもないのに…」と言われました。また、保守的な土地柄ですので、「女だてらに」ともよく言われます。

——加藤代表の頑張っている姿勢は、女性の励みになっていると感じます。また、寄付なども積極的に行っていらっしゃいますね。

●加藤 寄付も行っていますが、営業からは「お得意さまからヤマカがもうかっていると思われて仕事がつらい」と怒られますので、個人として寄付をしています。火災で焼失した虎溪山永保寺本堂の再建資金も寄付しました。大変悲しい思いをしましたが、国宝の建物が残ったのは不幸中の幸いでした。周りの皆さんにも寄付をお願いし、無事に再建することができました。地域の皆さんのお役に立つならば、これ以上にうれしいことはないと思っています。



再建資金を寄贈した虎溪山永保寺本堂

—— 地元の陶芸家、人間国宝の加藤孝造先生を支援されるなど地元の文化を守っていらっしゃいます。

●加藤 孝造先生からは、クリスタルプラザの建設にあたり、壁面のオブジェを寄贈いただきました。「これ以上の規模の壁面作品は、今後制作する事はない」とおっしゃっていただいた、大変貴重なものです。1階に飾らせていただいております。また、父の遺志を継いで、若手陶芸家を育てる基金を設立しました。いい作品を作っていただいたら買い上げて、市の美濃焼ミュージアムに寄付しています。展示会に出せるぐらい多くの作品があります。

女性としての甘えをなくし「一生懸命」

—— 女性経営者として、働く女性に対するメッセージをお願いします。

●加藤 大学で起業家についての会合に出たことがあります。そこで学生が資金援助を受けて喫茶店を始め、ダメになったからすぐに辞めたという話を聞きました。会社を興すのは簡単だけど、辞める時の大変さがわかっていない、軽率に起業家を名乗ってはいけない、という話をしました。喫茶店をやるにしても、学業の片手間で、出来合いのものに少し付け足しだけの簡単な料理を出せばいいというような甘い考えでは成功しないと思います。

私は「一生懸命」という言葉が大好きです。お受けしたことは何事でも一生懸命やることをモットーにしています。また、女性だからといって甘えることなく、謙虚さを忘れず、おごりがないようにする。私はこの三つのことを大切にし、いつも心がけています。現実にはなかなかうまくいかないことの方が多いのですが…。

私は運がいい人間だと思うのです。工場を増やしたいと考えるといい土地の話が来たり、主人が育てたグループ各社の幹部がとてもよくやってくれたりして、大きな穴をあけることがなく、ここまで来ることができました。

—— 加藤代表は、信念をお持ちで、何事にも一生懸命でいらっしゃいます。運がいいとおっしゃいますが、そういったお心がけがあったからこそ、長く続けることができたのではないのでしょうか。



クリスタルプラザ玄関ホール 陶壁「環」前にて

受け継いだ土地を大切に有効活用

—— 今後、力を入れたいこと、やりたいことはありますか。

●加藤 もういい年なのでそんなにありません（笑）。社会人になって40年、そろそろ隠居したいのですが、世の中が変わってきているので、不安でなかなか引退できません。私はご先祖様から預かったものを堅実に守り、次世代に渡す橋渡しの役目が果たせればいいと思っています。空いている土地は、全てビルなどを建てて少しでも収入となるようにしました。また、先代から受け継いだ不動産は売ることはできません。建てたマンションは分譲でなく、賃貸にしています。当社としては、もう空いている土地がないので、今後は東京などの新しい土地に投資したいと考えています。

—— 加藤代表の「胆力」は本当にすごいと感じました。大変有意義な時間をありがとうございました。



本社

【会社概要】

- 本 社／岐阜県多治見市本町3丁目101番地の1
クリスタルプラザ多治見 4階
- 創 業／1895年10月 ■ 従業員数／120名(グループ全体)
- グループ会社
ヤマカ株式会社、ヤマカ陶料株式会社、ヤマカ興産株式会社、
有限会社ワイ・エム・ケイ、有限会社YMM
- 事業内容
産業用・家庭用燃料販売、保険事業、太陽光発電、
陶磁器用陶土販売、粉体原料の加工、タイル用原料製造、不動産業